



第 320 号

2026年(令和8年)

1月15日

中川村公民館



時間の流れ

僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

ああ、父よ

僕を一人立ちにさせた父よ

僕から目を離さないで守ることをせよ
常に父の気迫を僕に充たせよ

この遠い道程の為め

(高村光太郎 「道程」の一節)

この詩に触れる時、時間の流れは過去現在未来という一般的なものか、逆に未来現在過去へと流れているものかと考えさせられる。

私の実感ではむしろ、未来から過去へと流れているような感覚だ。

たとえば「秋の実り」を思い描き、それに向けた計画と行動を重ねる。すると次々とやってくる一つ一つの歩みが過去(道)になっていく。秋を迎える頃にはまた次の課題が待っている。

詩の中の「父」とは、自然を指すという。大いなる自然に見守られ、私もこの遠い道程を歩んでいきたい。



令和8年

～新成人は56名～

中川村成人式

1月3日(土)午後1時から中川村の望岳荘で令和8年中川村成人式が行われました。当日は、対象者のうち45名が出席し、友人恩師との久々の再会を喜びました。式典は実行委員会を中心に、厳肅な雰囲気の中で行われ、村長、教育長、恩師6名からお祝いの言葉をいただき、公民館からは記念品として成人式特別仕様の今錦(中川村のたま子)を贈りました。

成人式恒例の「新成人1分間スピーチ」では、それぞれの近況や将来の夢、成人の決意などを発表し合い、その姿を来賓、恩師、主催者のみなさんが温かく見守っていました。

式典後の祝賀会では、成人式特別仕様のBUFFエを囲み、久しぶりに再会した恩師や友人とともに賑やかに語らい、中川村の若者たちが当時の絆を思い出しながら、気持ちを新たにすることを機会となりました。

昨年8月に組織し、準備を進めてきた成人式実行委員会では、式後も成人式記念集の編集を進め、式当日の写真を含めて発行し、成人者や恩師への送付を計画しています。

門出を迎えた若人の皆さんの、今後の活躍にご期待いたします。

新成人代表

あいさつ

西村 伊夢さん
(中田島)

本日は成人を迎えた私たちのために、このような盛大で心温まる式典を催していただき誠にありがとうございます。また中川村長宮下健彦様をはじめ、お忙しいなかご臨席賜りましたご来賓の皆様方に新成人を代表して心よりお礼申し上げます。

そして、今日まで私たちとかかわりあい、私たちを育て、励まし、ご指導いただきました、家族や先生方、地域の皆様にも本日私たちが無事成人を迎えたことをご報告するとともに、感謝の気持ちを今、新成人一同改めて強くしていることをお伝えしたいと思います。

現在私は、千葉県の大学に進学し、企業を支える経営コンサルタントを目指して勉強をしています。今、企業に求められているものは何か、今後どのような対策していくかを学び、考え

ることは、正直難しくてやめたいと思うこともあります。ですが、決してくじけず友人たちとともに協力しながら日々頑張っています。

また、今学期は個人的に大物と感じている「経営実践」と呼ばれる授業を履修し、「味の素」などの大手企業を例に、企業が持続的な成長をしながら生き残るには何が必要か、顧客にとって魅力あるサービスやシステムを提供しながら利益を生み出すためには何をなすべきかを考えています。私はこの4年間の大学生生活で経営に関する様々なこ



村歌を歌う対象者のみなさん

とを学び、その知識を活かして様々な企業と関わり社会を支えていく、そのようなコンサルタントになりたいです。

小学生の時に結成された大人気仲良し問題児グループ「中ジャニ二」のメンバーの口から出ているような発言とは自分でも思えません。ですが、こんな私をここまで支え、まっすぐにしてくれたのは家族や先生方、特に恩師のダンディー先生です。改めて深く感謝申し上げます。

私たちはまだ20歳を迎えたばかりで社会人としてはまだまだ未熟なところもたくさんあります。社会に出て働いている人、学生として勉強している人、まだ将来の道を迷っている人さま



記念品目録受け取り



1 分間スピーチの様子

さまです。しかし、成人を迎えた今、大人としての自覚を持ち、責任ある社会人として歩んでいく決意をここに誓います。どうかこれからも温かい目でご指導、ご鞭撻いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、私が生まれ育ったこの中川村で無事申し上げられたこと、成人式実行委員の皆様を含め、本日の式典開催にご尽力いただきましたすべての皆様にお礼を申し上げ新成人代表のあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

久保田 ましろさん
(竹ノ上)

新成人代表
あいさつ

本日は、私たち新成人のために、このような温かく晴れやかな式典を開催していただき、誠にありがとうございます。

ご多忙の中ご臨席くださいました来賓の皆様、そして日頃より私たちを見守り支えてくださったっている地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

私たちが育ってきたこの中川村は、人と人との距離が近く、誰かの成長をみんなで見守り、喜び合える、温もりのある「ふるさと」です。

通学路で交わした何気ない挨拶や、行事のたびに掛けてもらった「大きくなったね」という言葉一つひとつが、今の私たちを支えてくれました。

この緑に囲まれた自然豊かな中川村で過ごしてきた日々は、小中学校の先生方や地域の方々、そして友だちとの多くの

出会いに恵まれ、たくさんの刺激を受けてきました。

その中で、さまざまな経験を重ね、自身は悩むこともありましたが、いつも周りの人たちに支えられながら歩んできたからこそ、今も前を向ける私があるのだとおもっています。これからは、この村で学んだ人とのつながりやあたたかさを大切にしながら、私も誰かを支えられる大人へと成長していきたいです。

そして何より、今日この日を迎えることができたのは、家族の支えがあったからこそです。嬉しいときも、悩んだときも、変わらずそばにいてくれた家族の存在は、私たちにとって何よ



成人式実行委員のみなさん



成人式実行委員長挨拶 (原琉慎さん)

りの心の支えでした。ここで改めて、これまで支えてくれた家族に、心からの感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございます。

これから私たちは、それぞれ異なる道へと進んでいきます。まだまだ不安を感じることもありますが、これからは自分たちらしく、人とのつながりを大切にしながら、一步一步前に進んでいきたいと思っています。

そして、これまで多くの方から受け取ってきた支えや優しさを忘れず、社会の一員としての責任を胸に、それぞれの場所で努力を重ねてまいります。

結びに、これまで私たちを支えてくださったすべての方々へ



祝宴の様子②



祝宴の様子①

の感謝を胸に、新成人一同、未来に向かって歩んでいくことをお誓いし、代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

話題あれこれ

なぜ今？令和の養蚕プロジェクト

かつては一大産業だった伊那谷の蚕糸業。しかし昭和後半から平成にかけて、中国生糸の品質向上、養蚕農家の高齢化、国の政策等により蚕糸業は縮小・激減し、現在では長野県内全体でも養蚕農家は5戸のみとなっています（令和6年10月農水省「蚕糸をめぐる事情」レポート）。ところが今、再び養蚕が注目されています。駒ヶ根シルクミュージアム館長の伴野豊さんに伺ったお話を基に「令和の養蚕プロジェクト」について紹介します。

なぜ今、再び注目？

今、再び養蚕が注目されている大きな理由は「医薬品開発」。カイコの蛹からワクチンをつくる技術が開発され、すでに豚の感染症予防ワクチンが実用化されています。将来的にはヒトへの利用が進むことも期待されており、カイコ蛹の需要が高まっているそうです。

駒ヶ根市では駒ヶ根シルクミュージアムを中心に「カイコプロジェクト」を起ち上げ、九州大学発のバイオベンチャー会社と連携し、カイコを活用した医薬品開発と地域の伝統産業の再生等を目指す取り組みを始めています。

ミニミニ養蚕

このプロジェクトのユニークなところは、養蚕の担い手確保のため「ミニミニ養蚕」と名付けられた市民参加型の小さな養蚕を取り入れていることです。シルクミュージアムで4齢期まで育てたカイコの幼虫を5齢期から市民協力者に飼育してもらいます。

例えば1さる50頭×20さる、1000頭のカイコ飼育なら、



真綿づくり

※養蚕とは？
カイコガ科の昆虫「蚕」を育てて繭を作らせ、その繭から絹糸を得る営みのこと。

部屋のちよつとした空きスペースを活用して養蚕が始められます。桑はシルクミュージアムで用意。朝晩の桑やりと、フンや食べ残した桑の片付け（除沙）など、各20分程度の作業で済むそうです。

繭ガラは再利用

繭は九州へ送付し、蛹を取り出して医薬品開発に活用。蛹代金は飼育者に支払われます（ちなみに令和6年は1蛹11円だったそうです）。不要となった繭ガラは駒ヶ根に戻され、繭クラフトや真綿づくりなどの地域資源として再利用されます。

駒ヶ根では子どもからシニア世代まで幅広い市民が参加する取組みになっているそうです。また、餌となる桑の葉は、市内に残る桑園や休耕地を市民が提

供し、地域資源の有効活用にもつながっているといえます。
カイコとの暮らしを楽しむ

伴野館長は「今までの歴史と新しい知見を踏まえ、令和の新しい小規模養蚕で、地域活性、生きがい探し、カイコ・シルクとの暮らしを楽しんでみてはいかがでしょうか？」と提案されています。駒ヶ根市近隣でもカイコ飼育者、桑畑貸与、真綿づくり、繭クラフト、織物等々の担い手になってくれる方を大募集中だそうです！皆さんもミニミニ養蚕や真綿づくりにチャレンジしてみたいかがでしょうか？

カイコと人間

人間がカイコを利用するようになったのは4000年以上前ともいわれています。カイコは人間が飼育しないと1週間と生きられないそうです。カイコの命をもらってシルクが紡がれ、今またカイコの命をもらって医薬品がつけられる時代になりました。

中川村は天保（江戸時代後期）から明治にかけて全国で広く飼育された蚕品種「大草」が生まれた地です。「大草」は伊那生糸の好評と共に伊那の蚕種の名声を高めました。

「大草」を育成した佐々木宗八は「蚕蝶群霊碑」という石碑



を残しています。人のために役立ってくれたカイコへの慰霊と感謝の想いの表れだったのでしよう。令和の養蚕の時代にも、私たちは命をいただいたことを忘れずに、カイコと人間とのパートナーシップと文化を育んでいけるといいですね。
（参考：駒ヶ根市HP、駒ヶ根市シルクミュージアム常設展示図録）
（あ）



中川村うまれの品種「大草」

みんなの 広場

楽しいことを見つけて挑戦

沖町 中村 佳子 さん



去年からヨガを始めました。毎週月曜日に、商工会館の2階で開いているヨガ教室に通っています。股関節や肩甲骨を動かすことや、自分でマッサージをすることを教わり実践しています。最初に教えてもらったのが「寝ころんで軽く曲げた足を右左にバタパタ100回する」ということでした。とても簡単で体にもいいので、みなさんもやってみてください。

回を重ね「足を大きく開きスクワットをする」「片足で立つ」など少しずつ難しいこともできるようになりました。最近教わった「寝て自転車をこぐように足を動かす」動作は、前にこぐ

ことよりも後ろにこぐことがとても難しいですが、こちらのほうが体に効くような気がします。体重も少し減り、怪我也減りました。体の動きが良くなったのだと思います。体を動かすことが楽しく、ヨガクラブのみんなと会うのもとても楽しいです。これからも頑張つて続けていきたいと思っています。

手芸も好きでやっています。今は冬なので編み物です。早く作品を仕上げたい性分なので、かぎ針編で帽子やえり巻きや小物を作っています。実は時間短縮になるので、スクワットをしながら編んでいます(笑)。でもこれはダメです、すみません。

本を読むのも好きで、図書館から一度に5冊ずつ借りて読んでいます。今年借りて私が面白かった本を紹介したいと思います。宮島未奈さんの「それいけ! 平安部」成瀬シリーズ・柿谷美雨さんの「マンダラチャート」・高森

美由紀さんの作品もほのぼのしていて涙が出そうになりました。「いっしょにあんべ」(あんべは

南部弁(※)で行こうの意味)「おらおらひとりいぐも」も南部弁の作品です。他にも米澤穂信さんの「図書館シリーズ」・宮部みゆきさんの現代物も面白かったです。家にある本では「赤毛のア

ンシリーズ」や「シャーロックホームズ」や「アガサクリステイ」も好きで何回も読みます。

これからも楽しいことを見つけて挑戦したいと思っています。

※南部弁とは
青森県東部から岩手県にかけて使われる方言

「道」

竹ノ上 竹内 利彦 さん

中川村に住んで15年が経ちます。生まれは松川町です。

私は、西アフリカのギニア共和国の伝統音楽(ジェンベ)の演奏や指導を生業としています。ジェンベとの出会いは25歳頃でした。学生時代バンド活動をしていましたが、楽器は挫折し、ずっとボーカルでした。そんな私は、譜面ではなく「言葉で覚える」アフリカの音楽に強く惹かれました。

大きな転機は2003年。

ジェンベ奏者のナンサディ・ケイタ氏が、ギニアのサンバラ村から松川町にレッスンに来てくれた時です。電気も水道もない村の伝統音楽のなかで、20数名のクラス全員が一つとなり、心から笑顔になる経験をしました。この感動から「アフリカに行きたい」という衝動が強くな

り、翌年1月から3ヶ月間、初めての海外でギニアへ渡航しました。

首都コナクリでの2週間のワークショッップツアーの後、私が行きたかったナンサディ・ケイタ氏の故郷、サンバラ村へ向かいました。ニジェール川を渡り、野宿を経て丸2日かけて到着。巨大なバオバブの木が迎えてくれました。村人に挨拶をし、滞在と文化を学ぶことをお願いしました。手で食事し、川で体を洗うという暮らしでした。

言葉が分からない中での苦労もありましたが、少しずつ現地の言葉も分かるようになりました。毎日太鼓を習い、村のお祭りにも参加しました。村での暮らしの中でふと「自分は生きていく」ということを実感しました。



当時29歳の私は、それまでの29年間、生きていたことが「当たり前」だったことに情けなさを覚えました。

アフリカでは沢山の笑顔に助けられ、心からの思いやりと感謝の大切さに気づかされました。そんな人々のうるさいくらいの会話と助け合いに慣れた私は、日本に帰ってきて人との距離感や壁にカルチャーショックを受けました。

アフリカ渡航前には鷹職などの力仕事をしていたのですが、帰国後は友人に誘われて介護の道へ。人のケアをする中で、アフリカの音楽も人の心に寄り添う「ケア」だと気付いた私は、この文化を広めるため、つても無い中、太鼓を車に積み役場を訪ねるなどの活動を開始しました。やがて学校に呼ばれるようになり、各地でクラスが広がり、チームができました。

現在は、飯田出身の妻と五人の子とたちと、この中川村で暮らしています。

今後大切な「アフリカの文化」を、「ワクワク」を広めてまいります。そして、この中川村の皆さまと、太鼓を通して繋がれることを楽しみに、健康と平和を願い奏でていきます。心から、ありがとうございます。

郷想 故随 渡場いこいの広場

渡場地区在住 小池 厚さん

今年もイチヨウ並木の黄葉を
観に、多くの人が訪れています。
今年から村の観光協会も協力を
してくれて銀杏の収穫の時の応
援をしてくれました。

しばらく前は、小学校の子ど
もさんやお母さんも連れだつて、
収穫のお手伝いをしてけれど、
たが、それも時間の経過と共に
無くなり、今は高齢者の方の協
力を頂いて、収穫作業をしてい
る状況です。

昭和58年に圃場整備の空き地



に土を入れて平らにし、広い圃
場に一筋の緑地帯を作り、地域
の環境整備に役立てればと、設
立趣意書を作り、各戸を回って
寄付金を集めて有志を募り、イ
チヨウの苗を買い25本を植樹し
ました。

名前を「いこいの広場」とし、
設立当時は32名の有志で出発し
ました。施肥をし、剪定もして
成長を見守り、ようやく平成2、
3年頃から収穫できるようにな
り、市場開拓をし、出荷もして
収入も得てきました。

活動が活発な頃は、収穫後に
「いちよう祭り」もやって、銀
杏おこわ・豚汁・手打ちそばの
唐揚げなど、楽しく賑やかに収
穫祭をしたこともありました。

約200メートルあるイチヨ
ウ並木のほぼ中間に、藤棚が
あったのですが、管理も大変な
ので撤去して早生種の「久治」
を2本植えました。現在は南か
ら13本が「久治」で、北側14本
が晩生種の「篠九郎」で計27本
を管理しています。

当初有志で始めた活動も、一



部の人の活動では各種作業の手
間等にも限界があり、市場開拓
も思うに任せず、平成17年にこ
れまでの活動を清算し、改めて
渡場地区のものとして「渡場い
こいの広場」の名前で面倒を見
ていく事にしました。

現在は樹齢も40年以上経ちイ
チヨウの木も大きくなりました
が、作業・管理する人の年齢も
大きくなり、作業するのに身体
に堪えるようになってきました。

「渡場いこいの広場」の1年の
活動としては、春先の農道脇の
用水路の落葉除去、3月の剪定
作業、5月から8月にかけての
草刈り作業、10月からは銀杏の
収穫作業、11月の洗浄作業、干

場へ運んで天日での乾燥、選別
作業を経て12月初旬に出荷をし
ています。

何時頃だったか新聞報道で、
イチヨウ並木の黄葉が写真入り
で掲載され、一躍多くの皆さん
に知られることになり、今では
平日も少ない駐車場に停められ
ない程の人々が黄葉と銀杏拾い
に来てくれます。

村から「中川村の三十六景」
にしていたが、今年からは観
光協会からも駐車場の確保・誘
導案内・収穫時の応援等具体的
な支援も頂いております。また、
令和4年から始めた夜間のライ
トアップも村の「地域づくり支
援事業」の補助金で投光器を購
入、11月初めから夕方5時から
9時頃まで黄葉と落葉後の、黄
色のじゅうたんを照らして、付
近一帯を幽玄の世界へと誘って
くれています。

今年には村内の有志の皆さんの
「テント市」とタイアップした
銀杏の直売も、なかなかの人気
だったようでしたし、雪景色の
南駒ヶ岳・イチヨウ並木の黄
葉・国の登録有形文化財になっ
た白亜の中電南向発電所のコン
トラストで、この地域が一つの
景観スポットになれるように、
これからも頑張っていきたいと
思っています。

令和8年度 施設利用調整会議のお知らせ

日時：令和8年2月12日(木) 午後7時30分～
会場：中川文化センター 2階小ホール
対象：社会教育関係団体(クラブサークル)代表者
内容：施設使用方法・使用料、社会教育関係団体登録、
定例使用の調整について

お問い合わせ先：中川村公民館 (電話88-1005)

バレー祭 参加者募集のお知らせ

日時：令和8年5月3日(日) 午前8時～
会場：村民グラウンド・社会体育館・サンアリーナ
種目：男子一般の部、女子一般の部、
男女混合50歳以上トリムバレーの部
※参加希望チームは3月5日(木)までに各地区の公民館
体育部担当者を通じてお申し込みください。

お問い合わせ先：中川村公民館 (電話88-1005)

分館活動紹介

各分館での多彩な活動の一部を紹介します。

美里分館

「ボッチャ大会」
「五平餅会」

今年度は6月にボッチャ大会、10月に地区活性化委員会との共催で五平餅会を実施しました。

ボッチャは体力も老若男女の差も無く楽しめる球技で、小学生から80代まで楽しく交流することができました。

五平餅会は約50名の方が参加し、協力して五平餅を作って食べました。炊いたご飯を持ち寄って作った五平餅は、最高に美味しく心豊かなひとときとなりました。今後予定している活動としては、3月に敬老会を予定しています。今後とも地域交流の場作りができれば幸いです。



横前分館

「座禅体験会」



横前分館では、谷川住職たにかわにお願いし、横前にある祐源寺というお寺で座禅体験会を開催しました。足の痛い方もいるので今回は全員椅子に座って行いました。通常は30分ほど行うようですが、体験会という事で10分を2回行い、座禅終了後、皆で住職とお茶を頂きながら談笑しました。飛び入り参加の方も数名いらつしやり、「やってみて良かった」、「是非毎年開催してほしい」などの声もあがり、大盛況でした。なかなか出来ない良い体験ができたと思います。

原南分館

「癒やしの指ヨガと
ミニ防災講座」

南原分館では、近年の地震、豪雨等の自然災害への備え、意識向上のため『癒しの指ヨガとミニ防災講座』を開催しました。

ミニ防災講座では、断水時を想定し、簡易トイレの使い方、凝固剤でどの様に水分が固まるのかをペットボトルに入れた水を使って実践しました。参加者相互に協力し体験するとても良い機会となりました。また、避難所での生活を想定し、心身を癒やす指ヨガを、自分自身の手を使い体験し、効果を感じてもらいました。講座を通じて、各世帯の災害対策への意識を高める有意義な時間となりました。地域住民の皆さんの今後の生活に少しでも役立てていただければ幸いです。

編集委員による
リレーコラム!

中川村新たな学校づくりプロジェクト ⑪

～みんなで考えよう!
わたしたちの新しい学校～～ 新たな学校づくりコンセプト **「ごちゃまぜに学ぶ」** ～

【ごちゃまぜに学ぶ】とは

学級だけではなく、同学年、異学年、地域の皆さんや村外の学校など、様々な人々と交わりを学ぶ経験をたくさん積むことで、自分も他者も大事にし、違いを認め合い、ともに生きていく力を育んでいくこと。

ごちゃまぜに学ぶって?

言葉だけでは「実際、どんな学校になるのだろうか?」とイメージしづらい部分もあり、「ごちゃまぜに学ぶ」を検索ワードに入れて調べてみました。すると、「ごちゃまぜラーニング」を実践している、2023年設立の福島県大熊町立「学び舎 ゆめの森」という学校があることが分かりました。

ごちゃまぜラーニングの実例

「学び舎 ゆめの森」の公式サイトや町の広報「おおくま Style」などによると、その設立の根底にある“学びと地域を混ぜながら育てる”というコンセプトがどのように具体的に展開されているか見えてきました。

どんなごちゃまぜ?

- ・「学び舎 ゆめの森」は義務教育学校。
- ・放課後の児童クラブも同じ施設。
- ・町と学校を隔てるフェンスがない。
- ・0歳から15歳までがともに過ごす、幼小中混在校。
- ・教室に壁がない
- ・チャイムがない。
- ・本の広場は地域住民にも開放。



震災復興を機に生まれた「学び舎 ゆめの森」では震災経験者による特別授業が行われたり、子どもたちが地域の文化や歴史を演劇で表現したり、地域と学校がごちゃまぜに溶け合っています。理念を共有する教育機関として、軽井沢風越学園と連携する関係にあり、長野県とつながりのあるこの学校、どんな学校なのか見学に行ってみたくなりました。(KK)



今月の「赤ちゃんこんにちは」は、令和6年7月に生まれた土川叶蒼ちゃん、ご両親の隼さん、舞さんにインタビューしました。

【生まれた時のエピソードを教えてください】

35週で切迫早産になり、しばらく入院していました。

36週6日で赤ちゃんが元気がないとわれ緊急帝王切開になり、心の準備ができないまま出産となりました。産声を聞いた

時はとても安心しました。性別を知っていました。先生に女の子が最終確認しました。(笑)

【名前の由来は?】

名前は全く決めてなかったの
で、入院中家族LINEで候補をいくつかあげて、その中で決めました。「カノア」はハワイ語で自由という意味があり、のびのびと自由に生きる人生、漢字には、

「叶」…願いが現実
に「蒼」…強く育ってほしい
と思いを込めて決めました。か
のあくんと呼ばれることが多い
です。

【叶蒼ちゃんは誰に似ていると
思いますか?】


会う人みんなにお父さんに似
てると言われます。鋭い目がお
父さんですね! (笑)

女の子なので母に似てほしい
です…。

【叶蒼ちゃんの癖は何かありま
すか?】

とにかくよだれがす
ごいです。服よりスタ
イの方が多いいくらい
持っています。スタイ
をしてないと服が水で
濡らしたみたいになっ
てます。(笑)

よだれは子ども4人
の共通点です。



【叶蒼ちゃんの好きな食べ物は何？】

白米と肉です。離

乳食を全く食べず
困っていました。

大人と同じご飯をあげたらパクパク食べるようになりました

【お子さんが生まれ
て生活が変わったことは？】

子どもが4人になり、ぎやかになったこと。

家族みんながおもちや、服を買ってくれるようになりました。

(笑)

おもちゃ担当は長男、服担当は長女です。

【叶蒼ちゃんのおもしろエピソードはありますか？】

最近少し大きめの滑り台を購入して、最初は1人で滑っていたのに、頭をぶつけてから手を繋がないと滑れなくなりました。階段を上がって滑る準備はして



いるのに、私が見て見ぬふりをしていたら、ジーツと目線を送り静かに待っていました。気が強いくせにビビりです。

【最後に、ご両親から叶蒼ちゃんに一言】

隼さんから……

小さく産まれてきたけど、健康第一に元気に成長してね。一緒にたくさん笑おうね。

舞さんから……


産まれてきてくれてありがとう！

小さく産んでしまったこと、

末っ子期間が1番短くてごめんね。これから楽しいことを経験して、元気に育ってねー!!

★★★★★

いろいろとお忙しい中、インタビューを受けていただきましてありがとうございます。元気に大きく育つてくださいね。

A cartoon illustration of a baby with a large head and a small body, wearing blue overalls. The baby is holding a yellow bottle with a red cap and a white label. The baby has a happy expression with a wide smile.

シンガーソングライター松任まこと谷由実が、昨秋40枚目のアルバムを発売した。デビューから53年。数々の名曲とともに時代を駆け抜けてきた彼女だが、今回のアルバムでは、なんとA Iにこれまでの全楽曲の歌声を学習させ、新たな歌声を創り出して曲に取り入れた。最新の曲なのに、当手を彷彿させる何とも懐かしいサウンドになっている。

しかし彼女は言う。「日本語は漢字・ひらがな・カタカナの3通りの文字を使って綴っていくもの。行間にたくさん情報があり、そこからインスパイアされて次のフレーズが浮かんでくる。だからA Iには作詞は無理自分を磨くことには使えけれど（作詞することには）明け渡さない」と。そう、だから彼女の詩は心に響くのだ。

A I技術は長足の進歩を遂げそう遠くない未来にはあつさり人間の知能を超えてしまう日が来るだろう。しかし、ことばを紡いで文章を創り出すことは人間は決してA Iには負けないと信じてたい。

公民館報編集委員一同、今年も皆様の心に響く記事を届けられるよう精進いたします。今年もよろしくお願ひします。(と)

うちょうらん

